## 司会：冒頭のあいさつ

それでは、お時間となりましたので、東京エレクトロン株式会社 2022 年 3 月期 第 3 四半期の決算説明会を開始いたします。本日はお忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。私、司会進行を務めます、IR 室の八田です。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席者の紹介をいたします。取締役会長 常石哲男でございます。続きまして、そのお隣、代表取締役社長・CEO 河合利樹でございます。続きまして、取締役 専務執行役員　Global Business Platform 本部長　ファイナンス部門担当 布川好一でございます。

プレゼンテーションに先立ち、私から、本日の会の流れについてご説明させていただきます。これより、布川、河合のプレゼンテーションをお聞きいただきます。その後 18:00 まで、質疑応答のお時間を設け、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。本説明会は、Webex を 2 回線使い、日英の同時通訳でおこなっております。先日、メールでご案内させていただいたとおり、音声のみをお聞きになりたい方は、電話でもご参加いただけますが、ご質問されたい方は、PC もしくはモバイル端末のアプリをお使いください。また、本説明会は機関投資家様・アナリスト様向けの説明会となっております。大変申し訳ございませんが、回答は、従来通り機関投資家・アナリストの方々のご質問に限らせていただきます。本説明会につきましては、後日、日英の音声配信をホームページ上に掲載しますので、こちらも併せてご利用ください。

それでは、はじめに、取締役 専務執行役員　布川より、「連結決算の概要」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

## 第 2 四半期 連結決算の概要

布川 好一（取締役 専務執行役員 Global Business Platform 本部長）

こんにちは。ファイナンス部門を担当している布川でございます。では、早速、2022 年 3 月期 第 3 四半期の連結決算の概要について、ご説明いたします。

### 損益状況：スライド 4

第 3 四半期の売上高は、前四半期比 5.4%増加の 5,064 億円となり、四半期としては初めて 5,000 億円を超える売上となり、過去最高を達成いたしました。

SPE 売上高は、4,888 億円。こちらも四半期売上としては過去最高となりました。FPD 売上高につきましては、176 億円となりました。

売上総利益率は、第 4 四半期の販売計画に沿った形で、工場稼動率がさらに上昇したことにより、46.0%と高い水準となりました。

営業利益率は、売上総利益率の上昇に伴い、30.8%となりました。

### 損益状況：スライド 5

こちらは、先ほどご説明させていただいた業績をグラフで示したものになります。

**セグメント情報：スライド 6**

こちらは、「セグメント情報」 になります。

SPE は、売上高 4,888 億円の着地となりました。拡大する市場において、SPE 各製品群を順調に売り上げたことで、売上高は前四半期から伸長いたしました。利益率につきましても、34.9%と高い水準となりました。

FPD については、売上高 176 億円、利益率は 11.3% となりました。

売上構成比としては、第 3 四半期は、前四半期から変わらず、SPE が 97%、FPD は 3%となりました。

**SPE 部門 地域別売上高：スライド 7**

こちらは、「SPE 部門の地域別売上高」 になります。主に、中国および北米向けが増加しております。中国地域につきましては、第 3 四半期は、地場の新興顧客の投資が増加したことを受け、非常に高い水準となりました。北米地域につきましては、ロジック向け投資の加速を背景に、売上高も伸長してきております。

**SPE 部門 新規装置　アプリケーション別売上構成比：スライド 8**

こちらは、SPE 部門の「新規装置のアプリケーション別 売上構成比」になります。

第 3 四半期は、下から、ロジック 50%、不揮発性メモリ 19%、DRAM 31% となりました。すべてのアプリケーションにおいて、前四半期より増加いたしました。

DRAM に関しましては、昨年からの市場の回復を受け、お客さまの堅調な投資が継続したため、売上を伸ばしております。NAND に関しましては、投資が年前半に集中した結果を受け、若干調整は入りましたが、強い引き合いが継続しております。

**フィールドソリューション売上高：スライド 9**

こちらは、「フィールドソリューション売上高」になります。

第 3 四半期は、1,161 億円と、引き続き高い水準となっております。前四半期比では減少しておりますが、こちらは前四半期に大きく増加した改造案件が落ち着いたためであり、パーツ/サービス売上は引き続き堅調に推移しております。

**貸借対照表：スライド 10**

続きまして、「貸借対照表」 になります。

資産合計は、1 兆 7,243 億円。現金同等物は、4,239 億円。売上債権及び契約資産は、2,804 億円。棚卸資産につきましては、今後の販売計画を見据えた調達・生産戦略の実行が影響し、4,401 億円と、前四半期と比較し大きく増加いたしました。

負債は、5,072 億円。こちらは主に前受金などの流動負債の増加によるものであります。純資産は、1 兆 2,171 億円となりました。また、自己資本比率は 69.9%となりました。

### 棚卸資産・売上債権の回転日数：スライド 11

こちらは、「棚卸資産と売上債権の回転日数」になります。

棚卸資産回転日数は、前四半期から変わらず、86 日となりました。売上債権回転日数については、55 日となりました。

### キャッシュ・フロー：スライド 12

最後に、「キャッシュ・フロー」になります。

営業キャッシュ・フローは、1,146 億円。投資キャッシュ・フローは、▲135 億円。財務キャッシュ・フローは、▲1,007 億円。こちらは主に配当金のお支払いによるものでございます。フリーキャッシュ・フローは、1,010 億円　となりました。

以上、連結決算の概要についてご報告させていただきました。

## 司会：次のプレゼンテーションの紹介

それでは、続きまして、CEO 河合より、「事業環境および業績予想」について、ご説明申し上げます。よろしくお願いいたします。

## 事業環境および業績予想

河合 利樹（代表取締役社長・CEO）

それでは、皆さま、改めましてこんにちは。河合でございます。私の方から、「事業環境および業績予想」についてご説明申し上げます。

### CY2022 事業環境（2022 年 2 月時点での見方）：スライド 14

まず、「CY2022 事業環境」についてご説明いたします。

CY2022 の WFE 市場につきましては、昨年に引き続き、データセンターなど、社会のデジタルシフトの進展による半導体需要に牽引され、最先端から成熟にかけた幅広い世代向けの投資が継続すると期待されます。昨年 CY2021 の WFE 市場は＋50%に迫る大幅な成長を遂げたと見ていますが、今年 CY2022 の WFE 市場は、そこからさらに、２割近い成長ポテンシャルがあると予想しています。

次に、FPD TFT アレイ工程向け製造装置市場についてですが、昨年 CY2021 は想定どおり、LCD から OLED への移行の端境期にあり、前年比 2 割程度の減少と見ています。CY2022 は、車載など、新たなアプリケーションや、モバイル向けの新技術採用に伴う投資より、前年比 微増を見込んでいます。OLED への移行は、まずは小型で進行しており、今後、大型にも展開が進むと期待されます。

### CY2022 アプリケーション別の WFE 市場環境：スライド 15

続きまして、「CY2022 WFE 市場のアプリケーション別の見通し」についてご説明します。

ロジック/ファウンドリにつきましては、ICT（情報通信技術）の推進に伴うアプリケーションの拡大に

より、先端、成熟世代ともに積極的な投資がより一層進み、前年比で 20%を超える増加を見込んでおります。

DRAM につきましては、5G モバイル、データセンターの需要の増加、そして、DDR5 向け生産能力増強により高水準の投資がおこなわれ、前年比 15%程度の増加を見込んでおります。

不揮発性メモリにつきましては、SSD を適用したアプリケーションの拡大に伴い、前年比 5%程度増加の堅調な投資が継続されると見込んでいます。

**事業機会と注力分野（CY2022～）：スライド 16**

続いてこちらは、今後 5 年におけるデバイスごとのキーテクノロジーを示しています。

ロジックでは、High-NA EUV、GAA ナノシート、そして、電源供給配線をシリコンの裏面に配置する Backside PDN が登場する見込みです。

NAND では、現在、170 層へのアプローチが展開されていますが、そこからさらに 300 層を超える超積層構造に向かいます。また、異なるウェーハでつくったメモリセルと周辺回路を貼り合わせる技術が採用されると期待されています。

DRAM では、 2 次元構造の微細化が進むとともに、3D DRAM の登場が予想されます。

当社の幅広いプロダクトラインアップは、これらをカバーしており、大きな事業機会になると考えています。当社はこうした付加価値の高い領域でシェアの拡大を目指しております。

**FY2022 Q3 事業進捗：スライド 17**

次に、「FY2022 第 3 四半期の事業進捗」についてご説明します。

先ほど、布川から報告いたしました通り、第 3 四半期は、売上高、売上総利益、営業利益において過去最高を更新しました。半導体をはじめとするさまざまな部材が逼迫する厳しい状況の中、市場成長を見据えた、プロアクティブな調達・生産戦略が売上高更新に寄与しました。安全、品質、環境、サプライチェーンなど、生産に関するあらゆる課題に迅速に対応するため、昨年 9 月にコーポレート生産本部を立ち上げ、体制を強化しました。また、戦略製品の POR、装置選定も順調に進捗しております。

その他、今第 3 四半期には、車載半導体などの生産性向上を実現するパワーデバイス向けエッチング装置「Tactras™ - UDEMAE™」と、高精細の大型ディスプレイ向け新チャンバー PICP™ Pro を搭載した「Impressio™ 2400 PICP™ Pro」をリリースしました。

中期経営計画の前倒し達成が視野に入ってきました。引き続き、中長期的な成長に注力してまいります。

**FY2022 業績予想：スライド 18**

次に、「FY2022 業績予想」についてご説明いたします。

**FY2022 業績予想：スライド 19**

第 3 四半期までの実績の反映、および、これまでご説明させていただきました旺盛な需要を背景に、今期の業績予想を再度上方修正しました。

11 月の決算発表時と比較し、通期売上高は、500 億円増額の 1 兆 9,500 億円、売上総利益は、230 億円増額の 8,840 億円、営業利益は、190 億円増額の 5,700 億円、当期純利益は、160 億円増額の 4,160 億円となる計画です。通期の営業利益率につきましては、29.2%となる見込みです。

売上高、売上総利益、営業利益、すべての項目で、過去最高となる見込みです。

**FY2022 Q4 SPE 部門 新規装置売上予想：スライド 20**

次に、第 4 四半期の SPE 部門新規装置のみの売上予想についてご説明します。

最先端のロジック/ファウンドリの強い引き合いを背景に、四半期の売上として過去最高を更新する、3,900 億円を見込んでおります。なお、CY2021、1 月から 12 月の新規装置売上は、1 兆 3,858 億円、前年比約 6 割の成長となり、期待通り、WFE 市場の成長率をアウトパフォームできました。

CY2022 も、市場を上回る成長を目指し、尽力してまいります。

**FY2022 研究開発費・設備投資計画：スライド 21**

次に、研究開発費と設備投資の計画です。

取得のタイミングのずれによる差異が発生する可能性もありますが、計画に変更はございません。

FY2022 は、いずれも 過去最高となる見通しで、研究開発費は 1,650 億円、設備投資は 640 億円を計画しています。また、減価償却費につきましては 430 億円を見込んでおります。

拡大する市場と 多様化する 最新の技術ニーズに応えるため、積極的な研究開発と設備投資を加速していきます。

**FY2022 配当予想：スライド 22**

次に、配当予想についてですが、今期の業績予想と配当性向 50%に基づき、上方修正しております。1 株当たりの配当は、通期で 1,336 円を 予定しております。過去最高の配当額となる見込みです。

**（タイトルなし）：スライド 23**

お蔭様で、東京エレクトロンは、一般社団法人 日本取締役協会が主催する「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®2021」において、大賞となる「Grand Prize Company」を受賞しました。この受賞を励みに、当社は今後も資本市場からの期待に応えるため、装置メーカーとしての専門性を生かし、半導体の技術革新を追求いたします。

そして、社会の共通価値である「デジタル×グリーン」の両立に貢献することを通じ、中長期的な利益の拡大と継続的な企業価値の向上に努めてまいります。

**（タイトルなし）：スライド 24**

私からの報告は、以上となります。どうもありがとうございました。